

ASAP あきる野 多摩川学園 カンボジア校通信

*
NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)



CONTENTS

- **タットム校へ新校舎を寄贈**
寄贈までのあゆみ…P1
寄贈式典での挨拶 プーツティレアカンボジア大使…P2
寄贈のことば 長谷川理事長・池田理事…P3
- **平成 19 年度通常総会のご報告…P4・5**
- **ASAP 活動の報告…P6**
- **ホームページがスタート…P7**
- **『Weekly News 西の風』ASAP を紹介…P7**
- **子ども達の絵を交換！…P8**

2007.10

タットム校へ新校舎を寄贈

寄贈までの経緯

カンボジア通信 vol.1の『今後の支援の方向について』の中でふれました、トロク小から独立したタットム小から切望された5・6年生用校舎の建設支援につきまして、総工費が約300万円と大変大きい為、理事会で真剣な審議を重ねました。その結果 NPO 発足間もない時期に、300万円を支援することは無理があるとの意見で一致し、NPO では約半額の150万円を支援し、残りの半分を ASAP 副理事長の池田五郎さんを代表として設立する「タットム校

の校舎を寄贈する会」を母体として、寄付を募集することで、支援要請を受諾することにしました。

お蔭様で多くの皆様のご協力により、160万円の浄財協力を得ることが出来たため、前回同様プー大使を通し、確実に施工される事の保証をとりつけ、6月中旬に工事の契約をしました。できれば新学期に間に合うようにと急ピッチで工事を進めた結果、9月22日、校舎の落成寄贈式典を無事に挙行することができました。



歓迎を受ける、プー大使・池田副理事長・長谷川理事長



完成したトロク小新校舎



寄付者の名盤

*日本語の名盤写しを後方に載せました

寄贈式典での挨拶

駐日カンボジア王国特命全権大使 プーソティレア大使

本日、長谷川安年様を代表とされる皆様の温かいご寄付により、学校の落成記念式典に参列することができました。(中略)

日本とカンボジアの両国間には、これまで、文化的にも領土でも争うことがただの一度もありませんでしたので、両国間の友情と協力はカンボジアの国家再建と修復全ての分野において展開され、年を重ねるごとに、強固な物となりました。

また、日本は平和と開発をカンボジアにもたらすという積極的且つ重要な役割を果たされました。日本の惜しみない援助プログラムは過去15年間カンボジアに重要な利益を与えてくださいました。

日本は特に国のインフラ整備、道路などの修復のために、多くの財政的、そして技術支援をカンボジアに提供してくださいました。港湾、橋、電気系統、国中の浄水施設と、これらのプロジェクトは、国のさらなる発展を促進する恒久的な高い技術水準のものばかりです。

また、アンコールワットの遺跡修復もそうです。アンコールワットを有するシェムリアップ州のみならず、いまや世界中から多くの観光客が訪問する世界遺産となり、カンボジア国家の象徴の為に多くの支援を頂きました。

私は2007年4月4日に東京の大使館において池田五郎様、長谷川安年様のお目にかかり、定員を超えた窮屈な教室解消のためトロク校に引き続き、タットム校の学校建設の討議をさせていただきました。その後6月11日タットム校の学校建設支援の調印がなされ、本日新校舎の落成記念式典をむかえともに祝うことができました。

日本の皆様のご支援で、村の子どもたちのために机、いす、トイレ、および井戸を備えた3つの教室があるすばらしい校舎が完成しました。この学校はカンボジアでの長期的、人材育成開発のために非常に重要であります。これから先、この学校の生徒達は過剰な人員であふれかえる劣悪な学習環境を軽減することができて、より良い学習環境得ることができました。タットム校の子供達は明るい未来を手に入れることができるでしょう。

私はカンボジア国民とカンボジア国王政府を代表し、長谷川様、池田様を初めとしたメンバーの皆様に、この貴重な且つ重要なご支援がカンボジアのこの遠く離れた村において教育を可能としていただいたことに、深く感謝の意を申し上げたいと思います。カンボジアの子供達が、適切な教育を受け、平和で反省した民主的なカンボジアを再建することと確信いたします。

駐日カンボジア王国

特命全権大使 プーソティレア



寄贈の言葉

アジアの子供達の就学を支援する会理事長 長谷川 安年

タットム校の校舎を寄贈する会 代表 池田 五郎

ルムチェック村の皆さんおはようございます。タットム小学校の校舎落成寄贈式典にあたり、寄贈者を代表し一言ご挨拶申し上げます。(中略)さてお集まりの皆さん、昨年3月のトロク小学校の校舎寄贈に引き続き、多くの日本人の善意を集め、再び喜びの日を迎えたことを心からうれしく思います。(中略)

ともにトロク小を支援してきた池田さんと私は、タットム校に新しい校舎を造るため、個人として寄付するだけでなく、日本の知人に協力を呼びかけることを決意しました。池田さんはこの事業のために「タットム校の校舎を寄贈する会」の発起人となって多くの寄附を集め、私はトロク小への支援をきっかけに生まれた支援団体(ASAP)の理事会にはかって特別支出の承認を得ました。

この校舎は、皆さんにまだお会いしたことのない多くの人々もふくめ、日本の数十人の友人達からの贈り物です。

お集まりの皆さん、日本は62年前、アジアのほとんどを巻き込んだ戦争にやぶれ、多くの人が家族を失い、国民のほとんどが家や着物はおろか、その日に食べるものに窮する有様となりました。敗戦のとき17歳だった私も、外国からの支援物資で飢えをしのぎ、生きのびた経験があります。

皆さんの祖国も長い内線のために大変な苦しみを味わいましたが、復興と繁栄のために最も大切なことは何でしょうか。それは教育です。

私の祖国は世界の善意のおかげで敗戦のどん底から立ちあがり、敗戦からわずか24年で世界いで二番目の経済大国に発展します。しかし外国からの善意だけでそこまで豊かになれるでしょうか。その時代の日本人ががんばることができたのは、それまでの幾世代もの親が子供の教育に力を注いできたからに他なりません。

国民にいきわたった知識と思考力は無から有を生む工夫を可能にします。

私は教育の仕事に40年携わり、教育の大切さを誰よりも理解しているつもりです。どのような国に暮らしていても、親が子供に豊かで幸せな未来を望むなら、第一に与えなければならないのは、文字を読む能力、書く能力、そして計算する能力である、と私は信じています。この三つの能力のないところに豊かさを求めるのは、土のないところに苗を植えるようなものなのです。

村民の皆さん、新たな希望を持ってがんばってください。そして万難を排してお子さんを学校に送り出して下さい。その為に私達はこれからも支援を惜しまないことを約束します。あらたな校舎が多くの子供の将来を幸せなものとするを、強く祈念します。



式典で挨拶する長谷川理事長



式典での儀式の様子



平成19年度通常総会のご報告

去る9月8日に多摩川幼稚園にて平成19年度通常総会が開催され、平成18年度事業報告、収支決算、平成19年度事業計画、収支予算が承認されました。NPOに改組されてから初めての総会ということで、平成18年3月の任意団体発足から本年2月22日のNPO認可までの収支決算も合わせて承認されました。以下、決算、予算の概要です。詳しい収支予算、決算、事業報告、計画はホームページに公開しております。

1 18年度 事業の成果

平成18年度は、法人設立が当初の予定より遅れて平成19年3月5日となり、事業実施期間は実質4ヶ月弱となりました。まず、法人としての体制を整えるため、当法人の前身である任意団体「あきる野多摩川学園カンボジア校を育てる会」の財産の継承と会員制度への移行作業を実施し、19年度の会員の確定、財政基盤の整備を行いました。事業については、実施時期が現地の学校の学期と合わせているため、法人設立申請中の18年12月と19年度初めの7月に事業計画に従って実施しましたが、事業年度の期間の関係から今期の事業報告、経常支出には反映されていません。ただ、18年12月の事業実施のための現地訪問は、20名近い支援者が同行したこともあり、その成果を「カンボジア通信」として発行（支出は設立前）したことで、本法人の設立、事業の広報、支援者の拡大に大いに寄与しました。なお、19年度事業として実施するタットム小学校の校舎建築支援については、カンボジア大使館とも調整しながら、支援母体の設立、支援金の募集等準備を行い、9月の竣工に向けての筋道をつけることができました。

2 平成 18 年度 収支決算(概要)

成立の日から平成 19 年 6 月 30 日まで

3 平成 19 年度事業計画(事業実施の方針)

平成 19 年度は、トロク小学校、およびその分校が独立した新設のタットゥム小学校、ならびに両校区の学齢児童家庭に対して、国内最低水準にある就学率の向上を目的として、各種の支援を継続します。両校に対し、教科書・教具等の寄贈を継続するとともに、教員給与の補助を通し人材の確保と教育の質的向上を促します。また、今年度の教室数が不足するタットゥム小学校の校舎増設に、「カンボジアタットゥム小学校に校舎を寄贈する会」と連携して資金の一部を支援します。またさらに学齢児童および家庭に対しては、現金収入の少ない両校区の実状に鑑み、困窮家庭への制服支給、上級学校進学者への奨学金支給、児童・父兄の啓発などの事業を継続し、就学率の向上を図ります。上記事業の遂行およびこれに係る調査・評価のため、引き続きおよそ 6 カ月に 1 度の頻度で、日本からボランティア数名が訪問します。さらに広報・啓発事業を継続し、支援の効率性を高め、国内の支援基盤を強化します。

4 平成 19 年度 収支予算(概要)

平成 19 年 7 月 1 日から平成 20 年 6 月 30 日まで

A S A P 活 動 の 報 告

<第4回訪問>

* 7007年6月30日～7月4日、

* 参加者 長谷川理事長と勝西理事

* 支援内容：

教師への支援金支給

月額 30\$×6ヶ月 180\$×16名分 2880\$

日本語習得費用

(教師1名に月額 50\$×6ヶ月 300\$)

給水タンク・カーテン・時計・バケツ 4個・

文具各種計 500\$ (総額 3680\$ 約 450,000円)



タットム校新校舎建築現場

- * 今回の訪問は ASAP として初めての訪問でした。また、タットム校新校舎新築工事の進行状況の視察も大きな目的でした。「ベトナムのホーチンミン乗換えて10時間をするカンボジアまでの道のりは、年を重ねた身にはなかなかきつい」と打ち明ける
- * 長谷川理事長ですが、支援活動が軌道に乗るまでは放り出すことはできないという
- * 熱いおもいと、勝西理事が同行して下さったことにより、無事帰国いたしました。

<第5回訪問>

* 2007年9月20日～9月24日

* 参加者 5名

* タットム校新校舎落成寄贈式典参加

タットム校校舎寄贈までの経緯と式典の様子は、別途詳しく記事にしましたのでご覧ください



ネルソンさん・石川さん・長谷川理事長・田村さん



以前プレゼントしたカンボジア語に訳した「日本昔話」
読まれている形跡があるのは嬉しいです。



教室で大歓迎を受ける池田副理事長

ホームページがスタート

ASAP のホームページが出来上がり公開しました。

アドレスは <http://www.tamagawa-kids.jp/c-index.html> です。

(注：～html と、最後まで打ち込んでください)

多摩川幼稚園のホームページからでも入ることが出来ます。

訪問時の写真なども随時載せていきますのでぜひご覧ください。



『西の風新聞』ASAPを紹介

ASAP が西多摩地域に配布されている『Weekly News 西の風新聞』の取材を受け、2007年8月31日に掲載されました。

掲載されたことにより、私達の活動を多くの人に知って頂くのは大変喜ばしいことです。NPO としての自覚と誇りを持って活動を続けていきたいと思えます。



子ども達が絵の交換を！

昨年12月の訪問では、多摩川幼稚園の園児の家庭に、家で使わない「新品の文房具」の寄付をお願いし、ダンボール3箱分をトロク小とタットム小の子供達に手渡すことができました。

今年6月の訪問時に、多摩川幼稚園の年長児数名に日本の家の様子（家族の様子）を絵に描いてもらい手渡したところ、早速トロク小の子供達も絵を沢山描いてくれました。鉛筆と色鉛筆で描かれた絵を多摩川幼稚園の廊下に飾ったところ、子供達は異国の香りを感じ取っていたようです。

こういった子供達同士の文化交流を今後も続けていきたいと思えます。



支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。毎月一定額でも一括のご寄付でも構いません。



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

***注 両口座名が異なりますのでご注意ください**

あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP 会報 Vol. 2 2007.10

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地
TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)
FAX 042-550-2467

■発行人 長谷川 安年